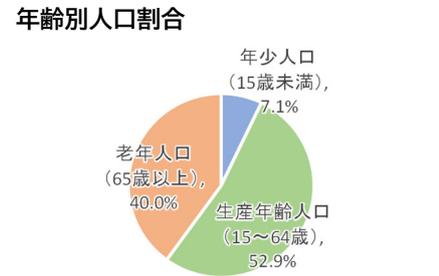


鐘尾 (かねお)

人口・世帯数等 (令和5年4月)	
人口	140人
世帯数	55世帯
高齢化率	40.0%



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落のすぐ東側を走る国道9号(山陰道)の西側に階段状に家屋が並び、道路に並行して岸田川が北東流する。東西に山が迫り、田畑は少ない。

地名由来 山陰道の蒲生峠の他に鐘尾村から因幡国長谷村(岩美町)を連絡する街道「としま峠」越えがあった。この山頂付近に寺院と村があり、鐘のある尾(山頂)の村が現在の場所に移動してのちに村名として伝わったという。

歴史等 集落の東側の尾根に戦国期の鐘尾城があり、城主は村尾氏という言い伝えがある。

近世の鐘尾村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保11年(1726)からは幕府領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)では「鐘ノ尾村」とあり、村高は84石余。千原村は当村から分村したと伝える。特産物は但馬牛で、当村で育成された「たけがな蔓」は改良の素牛となり名声を博した。

明治22年(1889)八田村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数76、人口は男197・女187。

これまで把握している文化財

文化財の件数 37件 (うち指定等文化財 1件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	1	0
		石造物	0	0
		工作物・その他の構造物	2	0
	美術工芸品	彫刻	10	0
		絵画	1	0
		工芸品	1	0
		書跡・典籍	1	1
		古文書・歴史資料・考古資料	2	0
		音楽	0	0
		演劇	0	0
無形文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	3	0
		祭具	0	0
		民具	0	0
		その他の有形の民俗文化財	0	0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	3	0
		民俗技術	0	0
		食文化	0	0
		民間説話・俗信	6	0
		その他の無形の民俗文化財	0	0
		散布地・集落跡・生産遺跡	1	0
記念物	遺跡	古墳・その他の墓	0	0
		城館跡・寺社跡	2	0
		街道・古道等	3	0
		戦争遺跡	0	0
		その他の遺跡	0	0
		山岳・高原・丘陵	0	0
	名勝地	海岸・海浜・島嶼	0	0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0	0
		公園・庭園	0	0
		その他の名勝地	0	0
動物・植物・地質鉱物	動物	0	0	
	植物	1	0	
地質鉱物	0	0	0	
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



永地売券帳



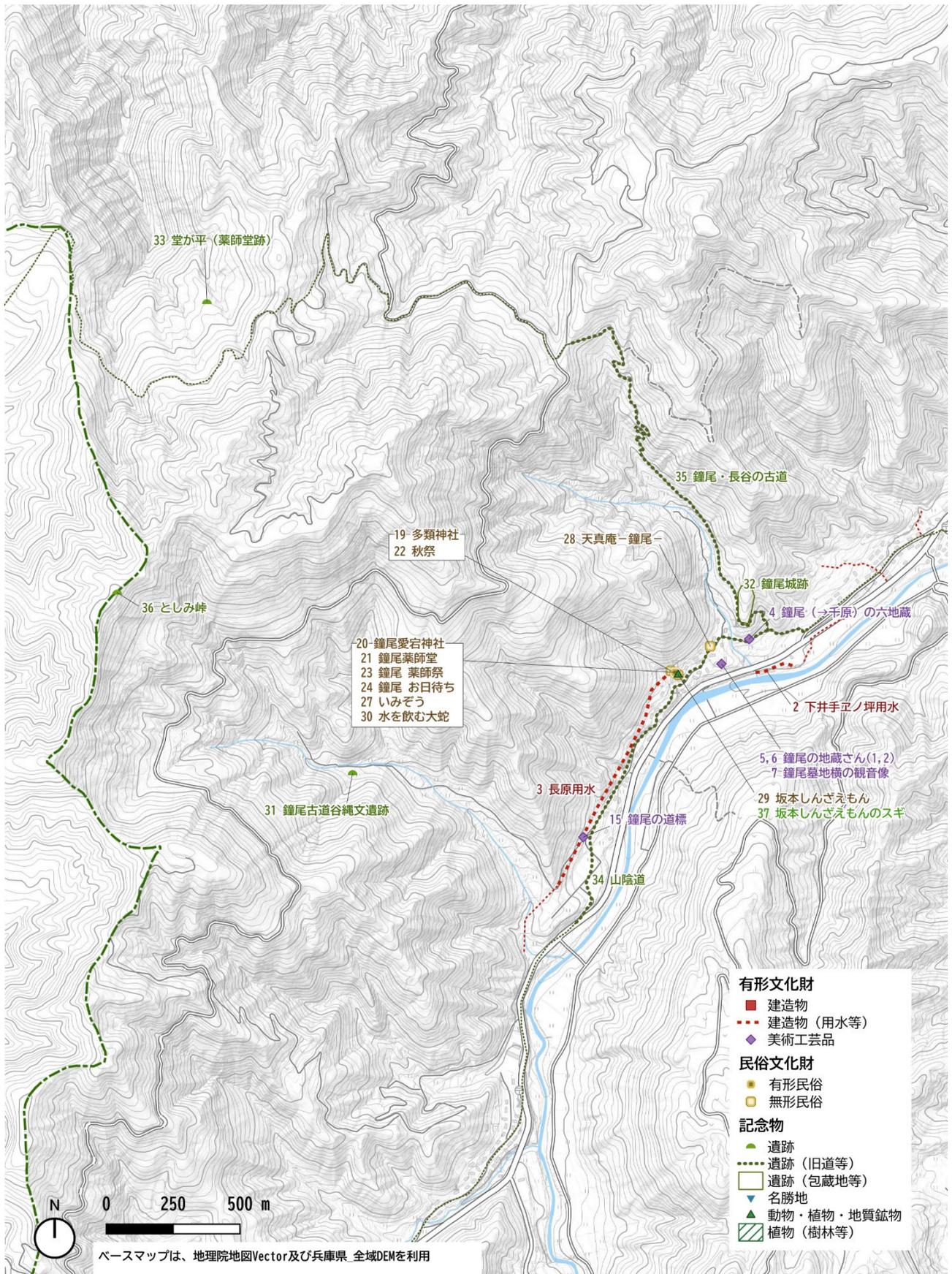
鐘尾薬師堂



多類神社 秋祭り

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

6-03 鐘尾

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	竹中家住宅	鐘尾区江戸期の御仕置き五人組帖他有文書・但馬国二方郡城主城代記他。
工作物・ その他の 構造物	2	下井手エノ坪用水	大正7年に改修された水路。水路延長616m、灌漑面積1.70ha。取入口は鐘尾向81、排水口は岸田川。
	3	長原用水	近代に築造された水路。水路延長1,530m、灌漑面積5.10ha。取入口は千谷長原、排水口は岸田川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	4	鐘尾の六地藏	44×193cmの石像。千原との旧道脇にあり、上には墓地がある。一つの切石に6体の地藏を彫り出している。下の蓮台以外は風化により不鮮明である。屋根及び土台はしっかりしている。
	5	鐘尾の地藏さん(1)	59×20cmの石像(立像)。旧道横にあったものを移転している。2体が並ぶうちの左側。
	6	鐘尾の地藏さん(2)	55×45cmの石像(坐像)。旧道横にあったものを移転している。2体が並ぶうちの右側。台座の花立に「右やま 左いなば」の道案内が刻んである。「安政二年(1855)五月 寄進千原村石工直三郎」とあり、反対側に願主が刻まれているが名前は判読できない。
	7	鐘尾墓地横の観音像	55×40cmの石像。村の墓地横に小屋を建てて安置されている。損傷はみられない。
	8	鐘尾の聖観音	全高65cm、像高41cm、台座16cmの木像。
	9	鐘尾の毘沙門天	全高121cm、像高100cm、台座20cmの木像。
	10	鐘尾の不動明王	全高127cm、像高104cm、台座18cmの木像。
	11	鐘尾の阿弥陀如来	全高145cm、像高82cm、蓮弁34cmの木像。
	12	鐘尾の薬師如来	全高141cm、像高83cm、蓮弁29cmの木像。
	13	鐘尾の勢至菩薩	全高44cm、像高21cm、蓮弁11cmの木像。
絵画	14	鐘尾薬師堂の絵馬	概要不明
工芸品	15	鐘尾の道標	山陰道と山へ向かう林道との三叉路に位置する。「みぎやまみち」「ひどりの奈者みち」と二面に刻む。年代は不明。58×25×21cm。自然石型。
書跡・典籍	16	永地売券帳	宝暦6年(1756)から明治8年(1875)までの120年間にわたる鐘尾の土地の移動を記載しており、土地の売買状況がわかる庄屋文書。5冊から成り、約1,250ページの膨大なもので、農村経済研究上価値が高いものである。今の土地台帳の原点ともいえる明治8年の地券台帳も併せている。 町指定文化財
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	17	竹中洋二家文書	概要不明
	18	竹中信哉家文書	概要不明

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	19	多類神社	近代社格は無格社
	20	鐘尾愛宕神社	概要不明
	21	鐘尾薬師堂	かつてとしみ峠越えに位置した尾の村に祀った仏堂を、村の移転の際に移したものと伝わる。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	22	多類神社秋祭	概要不明
	23	鐘尾 薬師祭	概要不明
	24	鐘尾 お日待ち	概要不明
民間説話・ 俗信	25	欲ばりばあさん	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p183参照
	26	鐘尾のガイダ婆	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p187参照 ※『歴史の道調査報告書 第3集 山陰道』（平成5年、兵庫県教育委員会発行）p120参照
	27	いみぞう	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p35参照
	28	天真庵－鐘尾－	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p41参照
	29	坂本しんぎえもん	※『温泉町史 第二巻』（昭和61年、温泉町発行）p14参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p54参照
	30	水を飲む大蛇	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p108参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	31	鐘尾古道谷縄文遺跡	縄文時代の散布地。縄文時代の乳棒状磨製石斧（長さ22cm）が、大正8年（1919）8月の林道工事中に出土。
城館跡・ 寺社跡	32	鐘尾城跡	中世の城館跡。主尾根の曲輪群に三重の帯曲輪を巡らせているところから、室町期～戦国初期の様相を呈している。戦国末期の改修は全く見られない。地侍クラスの小規模城郭で、村人が逃げ込む「村の城」と考えられる。
	33	堂が平（薬師堂跡）	かつて薬師堂が建立されていた場所。
街道・古道等	34	山陰道	古代山陰道のルートは、村岡から春來峠を越えて伊角・熊谷を通って井土に出て、その後、岸田川沿いを西へ向かい、蒲生峠を越えて因幡国に入るルートが有力と考えられており、ほぼ現在の国道9号に該当する。律令時代の官衙遺跡は井土に集中し、中でも古代山陰道の「面治駅」は竹田の面沼神社付近とされる。
	35	鐘尾・長谷の古道	鐘尾村と長谷村（鳥取県岩美郡岩美町）を結ぶ古道。
	36	としみ峠	但馬と因幡を結ぶ古い道の一つ。蒲生峠について人通りが多かった峠であり、鐘尾村と長谷村を結ぶ古道にある。この峠の尾はなだらかな野で、この野に畑を拓いて村（尾の村）ができた。この村の人たちが祀った仏堂の石垣と伝えるものが残る。堂に鐘を釣るほど栄えた村で、これが畑作から稲作への変化で麓の岸田川沿いに移住したのが、現在の鐘尾村という。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	37	坂本しんぎえもんのスギ	多類神社境内下、石段の右手に位置するご神木。坂本しんぎえもんにまつわる民間説話が伝わる。